木知原の今昔！

40号：6・5・31

木知原のあゆみ №8

区切りの40号。
ご笑読に感謝です。
体力 or ネタが尽きるまでもうひと踏ん張り・・・・と思っています。宜しく。

農民兵

“**木知原のあゆみ**”で何度も使ってきた**用語**である。

「**農民兵**」とは領主から村や地主に割与えられた臨時の兵士を後にそう呼ぶようになった呼称で古くは**雑兵**(ぞうひょう)と呼んでいた。使われ方は領主一任！であるが、一般的な姿は

◇領主から村や地主に応分な人数が要請され戦場では**尖兵**となって先陣を切らされた。
◇報酬も恩賞も無く、戦場で協力的でなかった者は後日**厳罰**に処せられた。
◇食糧はすべて自前。定番は「**干し飯**(ご飯を乾燥)」や「**干し芋**(ずいきにミソをしみこませて乾燥」といった軽量で保存の利く粗末なもので尽きれば戦地で**略奪**・・と荒っぽい手法。
◇裕福な農家はアルバイト兵を雇ったと言うからいつの世も・・・である！

木知原へも農民兵の要請が？

「農民兵」は他事でまさか“**木知原から農民兵が**”など余り考えたことは無かったが、戦国の世の戦(36号参照)のいくつかに招集を受け参戦させられていたことは確かでしょう。

? 美濃地方は権力争い多く“**勝ったからと言って領地が増え・諸税が軽減され・暮らしが良くなることなど何も無い**”という**訳の分からない戦**に農民は捨てコマの様に使われたのか？

? 領主(大名)は、農民の犠牲が大きければ農村が疲弊し税収が減少して自らの存続が危ぶまれるので、農民兵の使い方にはいろいろ苦慮していたとは思うが・・・。

? 世に知られる**川中島の戦い**は農民兵の犠牲を少なくとの配慮から10年余で5回の戦は何れも
- 秋の**収穫後から雪が降り始めるまでの農閑期**。
- **雨天時や敵味方が見分けにくい夜間**は**休戦**。　といった戦法であった。

これで“**農民を大切にした**”のか分からないが、美濃地方の戦はそんなに甘くはなかったと思う。

さて戦国の世の最後の戦となった「**関ヶ原の戦い**」について
- **表事情**は皆さんご存じの通り・・15万人が参戦(あいまい)
- **裏事情**を**のぞき見**しての一話を紹介しましょう

戦国三英傑

木知原村は、三英傑3人共の戦に関わった特異な歴史をもつ村であった。
木知原は国盗り物語の隠れ主役？

もって「関ヶ原の戦」を見学!!

「関ヶ原の戦い」の戦場となる村(農民)は戦い前から東軍西軍に関係無く炊きだしや陣地づくりのアルバイトで収入を得ていた。またその期に乗じて陣屋兵から戦の場所・期日・戦術など極秘内情を漏れ聞いていたようである。戦い前後の農民の動きを観ると

- **戦前**：早めに米や作物の**収穫**を終え貴重品を隠したりもした。
- **当日**：「おにぎり持って遠くの山頂から**見学**」していた。
- **戦後**：後始末や死者の装飾品で**一財産**築く農民も少なくなかった。　とのことである。

早めに収穫し山頂から見学しょう
(戦は旧歴9月15日：新暦10月21日)
米等の収穫は可能であった

戦場の村(農民側)からすれば“**勝敗の行方**”より戦による“**臨時収入**”に関心が移って来ていた。
兵農分離で戦が大きく様変わりしてきたことがわかり、観点を変えれば天下分け目も台無し!!

木知原は？

と言えば、時の領主(曽根城主)は東軍に属していたが参戦しなかった。
直後の「大垣城の戦」に戦功をあげ家康から褒美をもらったとあるが、村には何のおすそ分けもなかった。それどころか戦のための**増税**や**雑徭**が課せられていたことと思う。

♥木知原が直接戦いに関わったのは北方城の戦い(1582)の頃までと思われるが、それにしても南北朝以来**250年**もの間、臨戦の緊張感の中でくらしてきた訳であるから気が遠くなりそうである

※木知原のあゆみ。次号からは江戸時代の資料による今昔話に戻る予定。“あゆみ”は失敗!! 反省!!